

| 学校運営計画(4月) | | 評価(3月) | | |
|--|---|--|--------|----------|
| 学校運営方針 | 定時制の工業専門高校として、基本的な知識、技術、態度を習得させ、地域に貢献しながら、発展する工業社会に対応できる工業技術者を育成する。 | | | |
| 昨年度の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | | |
| <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の改善 ・電気工事士2種資格など、資格試験への合格 ・陸上競技での全国大会出場 ・生徒会活動の活性化 ・企業からの求人数の増加 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率と基礎学力の向上 ・基本的生活習慣の向上及びルールやマナーの順守 ・生徒一人ひとりの自尊感情を高めるための指導の工夫 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応 ・食育に関する意識の向上 ・就学就労指導の充実へ向けた関係機関との連携強化 ・広報活動の充実及びPTA・同窓会との連携強化 | <ol style="list-style-type: none"> 1 失敗を恐れず挑戦させ、その過程を認め、評価することで自己肯定感を育む。 2 受容、共感を基本に信頼関係を築き、不安感の払拭、安心感を生み出す。 3 部活動の活性化、資格取得やものづくり指導を充実させ、自主性や創造性、探求心の向上を図る。 4 確かな学力の育成を図るため、授業研究等の充実を通して授業改善を図り、教職員の実践的指導力を高める。特に、アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すことにより、たくましく生きる力を育成する。 5 特別支援教育に基づいたユニバーサルデザインを推進する。また、家庭、職場、中学校、外部専門機関等と緊密に連携するとともに、教職員間の生徒情報の共有を図り、生徒理解を深め、様々な方面から迅速で的確な指導と支援を図る。 6 道徳教育を推進し、教育活動のあらゆる場面で、責任感、協調性や礼儀正しさを身に付けさせ、人間としての在り方生き方の指導を実践する。 7 いじめ防止対策推進法及び福岡県いじめ防止基本方針に基づき、「学校いじめ防止基本方針」を策定し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。 8 教育活動のあらゆる場面で言語活動の充実を図り、これからの時代を生きていくためのコミュニケーション能力の育成を図る。 9 学校行事を充実させ、地域に開かれた学校づくりを推進する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成のための主体的・対話的で深い学びの推進 2 就業体験・学力向上・学校行事への積極的参加を通じた自尊感情の育成 3 あらゆる教育活動の場面における規範意識の向上 4 課題の早期発見及び迅速で的確な指導と支援による中途退学・不登校の防止 5 「学校いじめ防止基本方針」に基づく、組織的・継続的な、いじめ撲滅への取組の推進 6 積極的な情報の発信と交流による、開かれた学校づくりの推進 7 資格指導計画に基づく、さまざまな資格取得の推進 8 生徒一人一人の働くための意識を高める就業指導と進路実現の推進 9 生徒会をリーダーとした学校行事の充実による一体感の共有 10 学校農園での収穫物を活用した給食など、食育活動の充実 11 部活動の活性化を通じた望ましい異年齢集団づくりと達成感の体感 | | |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | 次年度の主な課題 |
| 教 務 | 魅力ある学校づくりを推進し、在校生の意識・意欲の向上と志願者の増加を図る。 | 溶接技術者評価試験、電気工事士試験、パソコン利用技術検定、品質管理検定、危険物取扱者試験、日本漢字能力検定など、資格取得を目指す意欲ある受験希望者を支援する体制を作り、前年度以上の成果を上げる。 中学卒業予定者だけでなく社会人や中途退学者が学び直しや高卒資格取得のために本校を志願したいと思うような広報活動を行う。 不登校傾向であった生徒も三池工業高校定時制ならば登校できるようになり、単位修得はもとより学校行事等にも参加して充実した高校生活を送って卒業できると、中学生・保護者・中学校教員・地域社会から評価されるような学校づくりをする。 | | |
| | 生徒の欠課時数及び原級留置者・中途退学者を減少させ、基礎学力の向上を図る。 | 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を推進し、学習意欲と基礎学力を向上させ、学力不足やこれに起因する自尊感情の低下を防止し、原級留置・中途退学の減少を図る。 「探究の過程を重視する学習」の導入等、「深い学び」の実現を目指した取組を研究・実践する。 1年生の1学期に、一人一人の能力に応じて国語や数学の基礎学力を向上させるために全職員で指導する体制を図り、高校での学習に適応できるようにする。 | | |
| 生徒指導 | 社会人としてのルールやマナーを身に付ける為、全職員で指導する。また定時制高校で学ぶ為の基本的生活習慣を育成する。 | 社会生活を送るためのルールやマナーを定時制での高校生活を軸に、毎週のホームルームで基本的生活習慣が身に付くように自己確認の機会を設ける。卒業後に社会人としての自立を意識させる。 年度休業中に校外ボランティア等を実施し、地域に貢献する定時制高校としての認知度を高める。また、学校行事を充実させ、地域に開かれた学校づくりを推進する。 | | |
| | いじめ等に対する職員間での共通理解を図り、全生徒にとって安全な学校になるように取り組みを充実させる。 | いじめの早期発見を図るために、毎月末にいじめアンケートまたは学校生活アンケートを実施する。集計後問題があれば即座に対応する体制を作り、組織的に対応する。 いじめ防止対策基本方針について共通理解を図り、いじめや暴力がない安心できる学校になるように取り組む。相談ボックスを毎日確認し、相談があった場合に対応できる体制を作り、対応する。 | | |
| | 校則を守り、規律正しい学校生活を送るように指導し、生徒自身が充実した生活を送ることで自分自身に誇りを持てるようにする。 | 各学期毎に校則を周知し、各学年と連携しながら保護者の理解と協力のもと、生徒を育成する。 生徒会メンバーの達成感を意識しながら、行事の中心として取り組ませることで学校行事を充たせる。また三池工業高校定時制の一員としての自覚を促し、生徒全員が誇りを持って学校生活を送ることが出来る学校づくりを行う。 前年度までに仕事をした経験がない2～4年生には、本年度中に就労体験をさせて社会性を身に付けさせる(短期間や短時間のアルバイトやボランティアでもよい)。 1年生のうち、学校生活に慣れ、確実に出席できる生活習慣が身に付き、アルバイトを希望しており信頼できる生徒の就労を支援する。 生徒のアルバイト指導は各学年団とし、進路指導部が全校生徒の就業先を調査して各学期ごとに一覧表にまとめて全職員で閲覧し、夏季休業中の職場訪問等で活用する。 | | |
| 進路指導 | <p>学業を疎かにしない範囲で、在校生の就業(アルバイトまたは正社員)を支援し、社会体験をとおして勤労観の育成を図る。</p> <p>卒業予定者の進路希望の実現を図る。卒業後に必要となる知識を習得させ望ましい社会人となるよう指導する。</p> | <p>3年生・4年生に対し、1学期に、求人票の見方、履歴書の書き方、面接の心得などを機会を捉え指導する。</p> <p>3年生・4年生に対し、職業観の育成、資産形成・金融に関する教育など、ライフプランについて指導する機会を、関係教科又は学校行事の中に設ける。</p> <p>就職内定が得られない卒業予定者に対しては、就職説明会も活用しハローワークと協力しながら指導する。</p> | | |
| 生徒支援 | 生徒の生活背景を知り、正しい生徒理解に努める。 | 家庭訪問・中学校訪問・職場訪問・教育相談を通し生徒理解に努めるとともに、ケアやサポートを必要とする生徒の情報共有、支援方針を明確化する。 出身中学校等に生徒自身がミニレターなどで現状報告、卒業年度には、出身中学校に卒業・就職・進学の情報等を通し、連携をしながら、生徒の成長を見守る。 関係機関と連携し、課題解決に努める。特別支援コーディネーターとともに、「生徒理解のための研修会」を計画する。 | | |
| | 生徒一人ひとりに「自信と誇り・感謝」の心を育てる。 | 基礎学力向上や「三工定農園」での就労体験から、段階的に自尊感情豊かな生徒の育成に取り組む。 卒業生や中途退学者等への継続的な支援を続け、失敗に学びながら、生徒の心に届く指導を実践する。 生徒・保護者とのコミュニケーションづくりに努め、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、退学者を減らす。 | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | 次年度の主な課題 |
|---|---|---|--------|----------|
| 保健食育 | 心と身体の健康をサポートしていく。 | 個々の生徒の課題について共通理解を図り、組織的・継続的な指導・支援をしていく。 他分掌・保護者と連携して、喫煙・飲酒・性・薬物等健康に関する意識を高める指導を行うために、親子研修会を企画する。 | | |
| | 食育教育を推進する。 | 学校給食通し、食生活と自然・健康について学習するために、給食指導を強化する。 保健食育委員会や食育クラブを中心に、三工定農園での作業や、毎月19日の食育の日に生徒の意見を給食献立に反映させるリクエストメニューなどの活動を活性化させ、食への関心を促していく。 | | |
| 企画情報 | 【学校行事の充実】 調整・連絡・事務局としての業務推進。 | 企画情報部内の担当を明確にし、業務の推進を図る。正副担当制として、チェック機能と業務知識取得・人材育成に繋げる。 | | |
| | | 校務運営会議および職員会議に行事計画を提示し、行事の進捗をサポートする。 | | |
| | | PTAおよび同協会事務局としての円滑な運営を図る。連絡・調整と会のスムーズな進行を図る。 | | |
| | | 110周年事業への参画。部門担当者が参画し与えられた役割を遂行する。 | | |
| | 【教員の実践的指導力向上】 研修・訓練等の企画・実施 | 職員研修に向けた調整を確実にし、効果的な実施に取り組む。全日および関係先との連携を確実にし、行う。 | | |
| | | 職員及び生徒への、普通救命訓練および防災・避難訓練を実施し、有事を想定した効果的な訓練となるように計画する。 | | |
| | | 職場環境・実習安全の確保から、5Sの定着を図る。 | | |
| | 【開かれた学校づくりの推進】 積極的な広報活動 | 学校ニュースを定期的に発行する。保護者対象の新聞(名称:MTS)を毎月1回発行する。 | | |
| | | 学校行事等の記録を行い、発表会資料・アルバム等、他分掌作成の資料作成等を支援し、改寧部門との連携に努める。 | | |
| | | 学校案内の作成と改定。学校案内作成の工夫発行。魅力ある学校案内を作成する。 | | |
| | 【情報システム業務の推進】 部門を横断したPC業務の支援 | HPへの維持・推進を図る。 | | |
| | | PCデータの管理について、文書ホルダーの維持管理を確実にし、行う。 | | |
| ICT関連の事務局として、電子黒板の管理や対外窓口業務を行い部内推進を図る。 | | | | |
| PC操作や機器トラブルに対して迅速な対応を行う。 | | | | |
| 【改善事項の収集と整理】 業務のスパイラルアップ | システムの維持管理・セキュリティ対策など関係部門と連携してシステムの安全・安心の維持を図る。 | | | |
| | 自部門主催の行事評価や業務遂行上の問題点の吸い上げを行い、次年度の学校行事や業務の質向上を図るためのフィードバックとして整理する。 | | | |
| 機械・電気 | 協調性や礼儀正しさを身に付けさせる | 積極的な声掛けを行い生徒理解を深めるとともに、生徒のコミュニケーション能力を育む。 | | |
| | | 授業や学校行事を通じ、団体行動での規律を守り社会性を育む。 | | |
| | | 挨拶や言葉使いなど礼節を重んじる態度を育む。 | | |
| | 専門科目に対する興味関心を持たせる | 授業でのITCの活用を促進する。 | | |
| 現代社会の変化や流行を取り入れた授業を行う。 アクティブラーニングを推進し生徒の主体的な授業参加を促す。 | | | | |
| 人権教育 | 人権尊重の観点に立った、教育活動を、全領域で展開して、中途退学者を減少させたり、低学力の克服に向けて、全職員で取り組む。 | 家庭訪問を充実させる。保護者の率直な意見を聞いて、学級の仲間づくりや学級活動の活性化につなげる。 | | |
| | | 毎週の生徒情報交換会において、人権の視点に立った教育活動を点検する。 | | |
| | | 人権を尊重する学校づくりができるように、自立した一人一人の生徒を育成する。 | | |
| | 人権教育が進展するために、可能な限り、研修会等に参加して、人権の学びを還元して共有する。 | 人権教育の意識を深化させるために、研修会等には自ら進んで参加して、学んだ内容を、職場に持ち帰り、還元する。また、新しい法令等の学習を積極的に実施する。 | | |
| | | 人権・同和教育の授業の指導・改善・工夫を、常にこころがけ、その成果と課題を積極的に生徒指導に役立てる。 | | |
| | | 人権・同和教育の授業案を丁寧に論議して、人権・同和教育推進委員会を組織的に運営する。 | | |
| | いじめや不登校や発達障がい等の課題を抱える生徒たちに、真摯に向き合い、その取り組みを充実させる。 | 課題を抱えた生徒たちが、安心・安全に通学できるような学校環境を整備する。 | | |
| | | 障がいを持つ人たちの課題を研修して、「障害者差別解消法」などの法令を学習する。 個々の特性に応じた支援の方法を組織的に模索して行く。 | | |